

畦畔の省力管理技術普及に向けた「展示試験ほ」を設置

気仙沼・本吉地域農林業振興推進協議会（宮城県気仙沼地方振興事務所、市、南三陸町、各農業委員会、地元農協等農業関係者で構成）では、耕作放棄地の拡大防止の一環として畦畔の省力管理の取り組みを進めている。

雪印種苗株式会社、片倉コープアグリ株式会社の協力のもと、気仙沼市の階上地区に、耐寒性に優れる芝草（ベントグラス、商品名「畦畔グリーン」）による畦畔の省力管理技術の普及に向けた「展示試験ほ」を設置した。

9月上旬に除草、下旬に播種を行い、稲刈りが盛んに行われていた10月上旬には、発芽状況の確認が行われた。当日は発芽ムラが見られたが、播種晩限を経過していることから、追い蒔きをせず様子を観察することとされた。



と期待している」と話していた。

趣旨に賛同し、ほ場を提供した農業委員の鈴木敏榮さんは、約1.1haの水田で水稲と枝豆等の作付けを行い、地域の担い手として活躍している。

鈴木さんは、「中山間地が多いこの地域で、畦畔の草刈り管理は大変な作業である。この芝草が順調に生育し、少しでも省力化と耕作放棄地拡大防止につながれば